

朝 市

団地自治区会運営の「ふれあい朝市」 ～ 車を運転しない高齢者の買い物を地域住民が支える ～

1 概 要

北九州市八幡西区の茶屋の原団地自治区会（地域住民）が、毎週火曜の午前9時から元スーパーの軒先や駐車場を利用して「ふれあい朝市」を開催。（開始時期：平成21年4月）

2 背景ときっかけ

- ・茶屋の原団地は1960～70年代の建設、「ついのすみか」として人気を集めた。現在高齢化率約40%となっている。
- ・団地内にあったスーパーは、2004年に郊外にオープンした大型商業施設に客を奪われ閉店。現在は、最も近いスーパーでも1km程度離れている。
- ・こうした現状で車を持たない高齢者にとっては日々の買い物に苦勞する状況にあったことから、自治区会自ら立ち上がり、「ふれあい朝市」を開始。

3 取組の内容

1. 「ふれあい朝市」で対象地域及び取り扱う商品の内容等について

対 象 地 域：茶屋の原団地内

開 催 場 所：団地内にあった元スーパーの協力を得て、元スーパーの軒先を便宜供与

販 売 商 品：野菜（地元住民約20人が栽培）、鮮魚（仕入れ値程度）、果物、惣菜（市価の2～3割安）
販売者の場所代が無料のため、その分価格が安価に

販 売 頻 度：毎週火曜日午前9時から午前10時まで開催

2. 事業の展開等について（茶屋の原団地の「ふれあい朝市」の特徴）

- ・自治区会（地域住民）あがての協力体制→商品を載せる販売台など会場設営からチラシの作成・配布、後片付けまで自治区会あがて取組む。朝市開催日の早朝には地元老人会のメンバーが宣伝カーで団地をまわりPR。
- ・販売者も地域住民が中心→地域住民（20人）が近所の休耕地を借りて野菜を作って販売。
- ・販売価格が安い→出店者には場所代を無料にするかわりに価格の引き下げを協力依頼。
- ・元スーパーも協力→朝市の販売場として、元のスーパーのピロティ（軒先）を便宜供与。

3. 行政との関係について

北九州市の行う「まちづくりステップアップ事業」の助成対象事業（事業名称：ふれあい朝市等高齢者対策事業）を活用（2年目）。「朝市」に対する直接支援ではないが、高齢者対策の一環として行っている。

4 取組の効果

- 1回の開催あたり、平均260人程度来場。本年4月の「ふれあい朝市」2周年を迎え、2年間の来場者数が2万6千人に達した。
- 地域の行事に誘っても出てこれない高齢者も、朝市には笑顔で出られる。
高齢者の引きこもり解消に効果。
- 朝市の買物の後、おしゃべりできる交流の場として活用される。

5 取組上の工夫

- 出店者には場所代を無料にするかわりに価格の引き下げを要請。
- 朝市開催日の早朝には地元老人会のメンバーが宣伝カーで団地をまわりPR。
- 地域住民の健康づくりとして、(朝市開催のあと) 新たなスポーツ(ペタンク)の実施や来場者や出店者の健康管理もあわせて実施。

6 今後の展望

- 今後、朝市の後の「おしゃべり」を定例化し、高齢者サロンを設置。(H22)
- 朝市を地域住民交流の場として活性化していく。

7 参 考

■(茶屋の原団地)

- ・人口約1,300人 ・世帯数約500世帯
- ・高齢化率:40%超

茶屋の原団地住民



買物

ふれあい朝市

- 元スーパー
→元スーパーの軒先や駐車場を朝市の開催場所として提供
- 出店者
→場所代がかからないため、安価で食料品を提供
- 地元老人会
→当日朝に宣伝カーでPR
- 団地自治区会
→会場設営、チラシ配布、後片付けなど裏方を全て担当

■北九州市八幡西区の概要 (H23.3現在)

- ・人口:257,818人 ・世帯数:107,591世帯
- ・面積:83.04km² ・高齢化率:23.5%



ふれあい朝市〈八幡西区〉

【問い合わせ先】 茶屋の原団地自治区会
北九州市八幡西区茶屋の原4-17-17
(朝市開催場所)

北九州市八幡西区役所総務企画課
電話:093-642-1441 (内線263)